

「やりたい」思いを引き出し、より主体的に取り組もうとする授業

単元名「楽しい冬」
～お店屋さんごっこをしよう～

日時	平成24年 2月17日(金) 2校時		
対象	小学部5年1組(3組)	指導形態	生活単元学習
場所	小学部5年1組教室	指導者	寺田・大鶴(松ヶ野)

単元における子どもの実態

本学級は、男子4人が在籍する知的障害学級である。在籍する子どもは、情緒がほぼ安定しており穏やかで活動的である。友達や教師と活動する楽しみを感じたり、いろいろな人とかかわりをもったりする中で、友達のことを思う気持ちが少しずつ芽生え始めてきている。「いずよう祭り」への参加は毎年経験しており、中学部や高等部の生徒の販売活動に触れながら、金銭の授受や販売活動時の基本的なあいさつを行ってきている。実生活では自分で買い物をする経験が少なく、金額に注目したり金銭の種類の違いを確認したりする機会が少ないため、金銭の取り扱いには困難を感じている。しかし、教師と一緒に考えながら買い物をすることで達成感を感じ、人とのやりとりを通じた具体的な活動の中でコミュニケーションの大切さを感じてきている。また、今までに、消防署見学等で働く大人の姿に触れ、成長することのイメージを少しずつもち始めている。

単元の意義・価値

本単元では、子どもたちの意欲を高める具体的な学習活動が多くある。その中でも「いずよう祭り」は、中学部や高等部の生徒の販売活動に参加することができ、金銭の授受や販売活動時の基本的なあいさつ等を身近に感じることができる貴重な機会である。そこで、人とかかわる上で大切なあいさつや感謝の気持ちの表現を「お店屋さんごっこ」で体験できるとともに、子どもたちが生活する上で欠かせない金銭の学習が具体的に行え、「できるようにになりたい」という意欲の向上が図られるのではないかと考える。また、職場見学等の体験的な活動を取り入れ、働く大人の様子に触れることで成長する自分を振り返り、これからの自分に対する夢や希望を抱き、目標をもつことができるようになるのではないかと考える。

ねらい

「お店屋さんごっこ」を通して人とかかわりや言葉の大切さ、金銭の大切さを意識し、人と自らかかわろうとする意欲を高めていきたい。また、成長していく自分を意識できるようにしたい。

指導観

本単元では、人とかかわるときに大切な視線の合致や言葉のやりとりを意識付けるために、賞賛の機会を多くもち、かかわりやすいように具体的な言葉を参考に使うようにすることで、相手に思いを伝える大切さに気付かせたい。また、具体的な指導場面では模擬貨幣を繰り返し扱うことでお金に対する関心を高め、遊びを通じた金銭授受への興味・関心の高まりを図る学習にしていきたい。

具体的には絵カードや写真カードを用いながら、金銭の授受や言葉の手助けをしたり、学習形態に変化をもたせグループや一対一対応、ロールプレイの形にしたりすることで、友達や教師とのやりとりから、主体的に活動できるようにしていきたい。また、中学部や高等部の生徒、働く大人とかかわることで、自分との違いや大きくなることへの希望を感じ取りやすいようにしたい。成長しつつある自分を意識しながら、人と豊かに過ごすための生活習慣の基礎やマナー、役割の大切さを伝えていきたい。

展望

これらの活動を通して、集団への所属意識や一体感、家庭での役割に気付き、自分のできることをできるだけしようという自立への一歩となると考える。また、よりよくかかわろうとすることで、コミュニケーションや周りへの関心が高まり、気付きから知的好奇心・考える力への転換が図られると考える。そして、協力し合いながら過ごすことの大切さを知ること、将来の社会参加への幅が広がり、みんなで生活をよりよく送ろうとする気持ちの芽生えへとつながってほしいと考える。

一人一人の実態から

氏名	A児	B児	C児	
単元に関する実態	興味・関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・説明されている内容に興味を示し、自分なりに解釈をして参加する。新しい活動でも関心を持ち話を聞くことができる。身体を動かすことが好きで積極的に友達や教師とかかわろうとする。 ・「～で遊ぼう。」等友達を誘うことが多く友好的である。大勢の前では緊張するが、することが分かると自分なりにやり遂げようとする。自信のあることには積極的に参加しやり遂げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的な補助や音声効果(音、楽曲、歌あそび等)や具体的な活動を通して、見通しがもちやすくなり、大まかな言葉でのやり取りが成立しやすい。 ・興味のある遊びは集中して行うが、一つずつの事象に対する興味の持続に課題がある。大まかな見通しがもてると活動しやすいため、絵カード等の活用が必要である。自分なりに見通しがもて意欲的に発言できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や学校生活における経験が少ないため、持続した経験の積み重ねが必要である。知らないことに対して興味をもちにくいですが、関心を高めると、言葉や動きを捉え、使おうとする。 ・人への関心が少し出てきて、かかわる意欲や向上心の芽生えが見られる。音声や動きに対する関心が高い傾向がある。見通しがもてると、感情のコントロールもできる。
	あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分からあいさつすることができるが、場の変化や慣れない人が相手のとき等声が小さく、相手に届きにくいことがある。環境に慣れてくると、声も大きくなっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分からあいさつをすることは少ないが、友達や教師からのあいさつには元気に答えることができる。 ・言葉は明瞭ではないが、相手の言葉を聞いて返事をするのできつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞かれた言葉にオウム返しで答えることが多く、自ら話すことは少ない。 ・「おはよう」や「さようなら」等知っているあいさつは促されると場に応じて使い分けることができる。
	役割	<ul style="list-style-type: none"> ・大まかな説明で自分の役割を理解することができ、言葉掛けがなくても意識して頑張ろうと努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から行動することは難しいが、教師と一緒に行動したり友達の様子を見たりして、少しずつ役割を理解し活動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割は理解して、行動に移すが、別なことに意識が向きやすいため、継続することが難しい。言葉掛けが必要である。
キャリア教育の視点から	意思表出	<ul style="list-style-type: none"> ・緊張したり考えすぎたりして言葉が出ないこともあるが、自分なりの意見や考えを表現できることが多い。どう表現するかを考えながら、繰り返す中で、人に思いを伝えている。使いやすい表現のモデリングがあると、考えながら話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・穏やかで友好的な姿勢が生活全般に満ちている。言葉での表現の豊かさを身に付けていないため、表情でのコミュニケーションが主体となりがちであるが、簡単な言葉でのやりとりを通して、言葉を介した意思表出の大切さを意識しつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で言葉の必要性をあまり感じていなかったため、身に付けている意思表出の手段が乏しいが、積み重ねの中で必要な言葉を習得しつつある。 ・行動面でも、より人に伝わりやすい形での意思表出を身に付けようとしている。
	金銭の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で金銭を意識することがある。お金の大切さを意識しており、硬貨の違いを見分けることができるが、数概念が曖昧なため確実な取り扱いは難しい。 ・一対一対応で30までの数を数えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭の取り扱いをする経験はほとんどなく、お金と商品の結び付きがあまりイメージできていないが、具体的な支援を受けながら金銭の確認をすることができるようになりつつある。お金を渡して商品を受け取ることはできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭の受け渡しが、商品の購入に必要なことに意識が向き始めている。 ・10円と100円の違いは理解している。経験により金銭に関する関心が高まる可能性が大きい。

指導目標

全体目標

全体目標	キャリア教育の視点からの能力領域
・ 冬の遊びや生活に関心を持ち、友達や教師と一緒に楽しく遊ぶことができる。	I-1, 3, 4 II-1, 2 III-2 IV-3

個人目標

氏名	個人目標	指導の手立て
A	○ 冬の遊びや生活を通して、冬の過ごし方や金銭の授受を意識することができる。	数唱の確認 日常生活との連携
B	○ 冬の遊びや楽しかったことを、言葉や身体表現を用いて相手に伝えることができる。	モデリング 言葉掛け
C	○ 冬の遊びや生活を通して、ルールや約束を意識しつつ、活動に取り組むことができる。	日常生活との連携 絵カード等の教材

指導計画

次	主な学習活動	時間	資料・準備
一	○ 冬休みの生活を振り返り新年の目標を立てる。 ・「ふゆやすみのおもいで」（課題帳） ・冬の生活 ・書き初め ・今年の目標	6	冬休みの課題 書き初めセット
二	○ 冬の遊びと生活 ・鏡開き ・鬼ごっこ ・こま遊び ・たこ上げ ・お風呂 ・節分 ・バレンタインデー	12	餅 CD 入浴剤 たこ 福笑い カード お面 こま
三	○ お店屋さんごっこをする。 ・いずよう祭りに参加する。 ・いずよう祭りを振り返り、お店屋さんごっこの計画を立てる。 ・お店屋さんごっこをする。 ・職場見学をする。（温泉、パン工場等） ・お礼の手紙を書く。	9 (本時 4/9)	金銭・模擬貨幣 絵・写真カード 作品(商品)

本時の学習

1 目標

(1) 全体目標

- ・ お店屋さんごっこをすることで、いろいろな役割があることを知るとともに、教師と一緒にやりとりをしながらお店屋さんごっこに興味をもつことができる。

(2) 個人目標

氏名	個人目標	指導の手立て
A	○ 金銭の授受に関心を持ち、言葉のやりとりができる。	○ 金銭関係は絵カードや写真カードを使い、視覚的に分かりやすくする。
B	○ あいさつをしながら、友達とのかかわりを楽しむことができる。	○ 教師が言葉掛けを積極的に行い、友達とのかかわりを増やすようにする。
C	○ あいさつや品物の受け渡し等の役割を思い出し、行動することができる。	○ 役割を意識しやすいように、言葉掛けをしたり、手順表を示したりする。

2 指導に当たって

これまでに子どもたちは、単元を通して新しい年を迎えた喜びを感じながら、制作活動やコミュニケーションを行ってきた。「いずよう祭り」への参加は、人とのコミュニケーションや金銭を仲介とした物のやりとり等、多くのかかわりがあり、毎年行ってきている。儀式や行事の学習の積み重ねにより、少しずつ「お兄さんになる」、「大きくなる」ということを考える機会が多くなってきている。今年度は季節ごとに「お店屋さんごっこ」や遊びを通じたかかわりで、言葉や金銭への関心を高めてきた。年末には前単元で、「鍋作り」をテーマに校外学習での買い物やバスの利用、調理学習を行った。それらの学習を通し、会計やバス代の支払い等の金銭を扱う経験が増え、関心をもつ子どもが見られた。

そこで本時では、まずお互いにやりとりを繰り返し行い、言葉や金銭に対する興味を高められるようにする。金銭の把握等はまだ難しい課題であるが、人とのコミュニケーションの大切さ、自らの意思の表出の大切さに気付いてきている。次に、より具体的に意識できるように、視覚的情報や具体的な言葉掛け、説明を行い、子どもが集中して主体的に取り組めるように配慮する。また、子どもたちの「やりたい」という気持ちや「できた」という充実感を積み重ねられるように、一対一対応だけでなくロールプレイでかかわりをもてるようにする。このような活動を通して達成感を味わえるようにし、次時の学習につなげていきたい。

3 実際（別紙）

3 実際

過程	時間	主な学習活動	指導上の留意点及びやりたいポイント		
			A児	B児	C児
導入	9:50	1 始めのあいさつをする。	全：必要に応じてあいさつを促し、子どもの号令で授業のあいさつに応じる。		
		2 歌遊びをする。 「こすれこすれ」ほか	全：表現がしやすいように言葉掛けや模範を子どもの実態に応じて示すとともに、楽しい雰囲気作りを心掛けてリラックスした雰囲気を保つようにする。		
		3 活動とめあての確認をする。 おみせやさんごっこをしよう。	T1：本時の活動を説明したり、目標と活動内容の確認をしたりして意欲が高まるようにする。 ・リラックスして、自分が思ったことを自分なりの言葉で、表現できるような言葉掛けに努める。 ・「お店屋さんごっこ」のイメージが広がるように、「いずよう祭り」等で買い物をしたことを、絵カードや写真カードを使って思い出せるようにする。 ・「いらっしやいませ」や「ありがとう」等のかかわりの言葉やマナーについて意識付けられるように、教師の模範や友達の発表を見るように促す。		
展開	10:00	4 言葉や役割の確認をする。 ・あいさつ ・商品の受け渡し ・お金のやりとり	全：教師の模範演技や役割分担の様子を参考にするこゝで、あいさつや身だしなみの大切さを意識できるようにして、自分なりに表現しようとする意欲を高めるようにする。 ★お客さんから受け取ったお金を100円と50円で確認できる。 ・商品の値段を確実に相手に伝えられるように、教師と一緒に声を出して確認をする。 ・戸惑うときには絵カードや写真カード、料金表を提示する。 ・模擬貨幣と金額が合致できるように一緒に声を出して確認をする。		
		5 お店屋さんの練習をする。	全：ロールプレイの中でお互いの役割を意識できるように模範演技をしたり、やりとりの言葉の大切さに着目したりする。 ・相手を意識して、繰り返して言葉や商品のやり取りをしたり模擬貨幣を数えたりすることで、自信をもってコミュニケーションできるようにする。 ・自分なりに考えた言葉を使うことができるように励ます。 ・周りの人の動きに意識を向けて、友達とのやりとりができるように言葉掛けする。 ★「いらっしやいませ」や「ありがとうございます」を場に合わせて使うことができる。 ・場に合わせたあいさつをすることができるように教師と一緒にあいさつしたり、あいさつの頭文字を言葉で示したりする。 ・相手の顔を見て話をすることができるように言葉掛けをする。		
	10:15		全：商品を丁寧に袋に入れることができる。 ・前回までの授業を思い出して、教師と一緒にまたは一人で役割に取り組むことができるように教師が模範を示す。 ・相手の顔を見て話すことを意識できるように言葉掛けする。 ・確実に商品を受け取り、袋に商品を入れられるように言葉掛けする。 ・覚えている言葉を使って店員としての呼び掛けすることができるように教師が模範の動きを示し、イメージを高めるようにする。 ・友達の様子を見ることで、販売活動の流れを確認することができるようにする。		
終末	10:30	6 振り返る。	T1：今日の学習について振り返ることができるように、必要に応じて絵カードや具体物を提示する。 ・自分がしたことを具体的に想起しながら、楽しかったことや印象に残ったことを表現できるように励ます。		
		7 次時の内容を知る。	T2：次時の学習を伝え、意欲を高めることができるようにする。 ・校外学習や職場見学のことにつれ、働く大人や大きくなる自分を意識しやすいようにする。		
	10:35	8 終わりのあいさつをする。	全：必要に応じてあいさつを促し、子どもの号令に応じてあいさつをする。		

全体への働き掛け

やりたいポイント及び教師のかかわり方

4 評価

(1) 全体評価

- ・ お店屋さんごっこをすることで、いろいろな役割があることを知るとともに、教師と一緒にやりとりをしながらお店屋さんごっこに興味をもつことができたか。

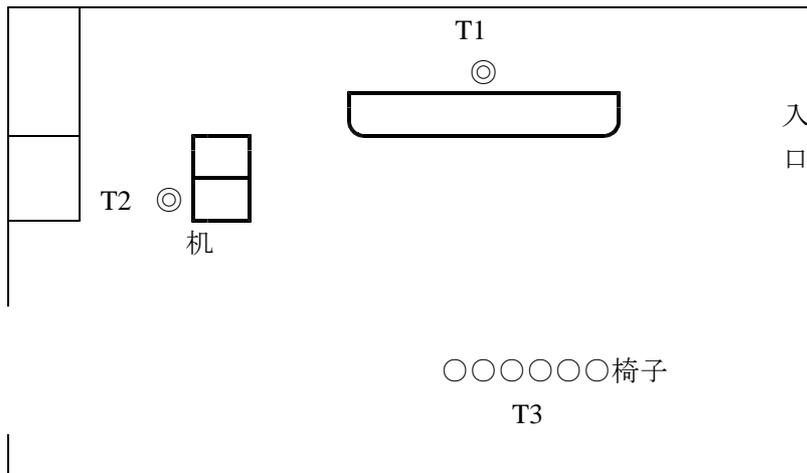
(2) 個人評価

- A児：金銭の授受に関心をもち、言葉のやりとりができたか。
- B児：あいさつをしながら、友達とかかわりを楽しむことができたか。
- C児：あいさつや品物の受け渡し等の役割を思い出し、行動することができたか。

5 場の設定

* 主な活動以外は椅子に座っての活動。5年3組（子ども2人）との合同授業。

(主な活動)



◎の位置に子どもが立ち、ロールプレイを行う。他児は様子を見る。